

研究を通じて海外とつながる

－ 普段している活動 －

早いもので今回が連載の最終回になりました。思うままに書いてきた徒然にお付き合いいただき有難うございました。さて、最後の回では海外へ発信していくために、普段の生活のなかで出来ることや現在行っていることに触れていこうと思います。

よく質問をいただくのが、海外で学会発表をするときに役立つ図書についてです。そうしたとき、私は C.S.Langham 著の『国際学会 English 挨拶・口演・発表・質問・座長進行』をお勧めしています。この本は指導学生から教えてもらって以来愛読しているもので、プレゼンテーションと質疑応答だけでなく、座長としてのセッションの進め方も紹介されています。私の参加したことがある海外の学会では、キャリア教育学会のように主催者が座長を依頼する形式のほかに、座長への立候補をつのるところもあります。座長は責任が重く緊張する役割でもあります。これを引き受けることによって同じセッションになった他の発表者と話をする機会が増えます。また、フロアーの方にも顔を覚えてもらい、その後のコミュニケーションにつながるといった利点もあります。

そのほかに普段していることといえば、共同研究のパートナーとつながりを保つこと、そして英語発表をする仲間をもつことです。共同研究というと、予算を得て期間内に成果を出してというプロジェクト型のものを想像しがちですが、それだけではなく、折に触れて情報交換をしたり、意見を聞いたり、自国の情報をアップデートし合うような仲間です。それから後者について、私は近くにいる研究者仲間が集まって英語で発表を行う機会を作るようにしています。内容は研究発表に限らず、授業のコンテンツを英語で紹介したり、研究の構想を練ったり、ときには特定のトピックについてディスカッションしたりと色々です。数人程度の小さな集まりですが、定期的に英語でアウトプットをする機会をもつことが良いトレーニングになっています。

さて、キャリア教育学会でも、IAEVG の開催を機に英語のセッションがはじまりました。発表者はまだ多くありませんが海外に向けて情報発信していく契機となる画期的な試みだと思います。私も 2 度ほど参加し、そのうち第 40 回大

会では幸運にもダリル・ヤギ先生に座長をしていただき、日本の状況と海外の対比などをふくむ幅広い視点からの質問やコメントを頂戴しました。機会があればまたぜひ参加したいと思っています。キャリア教育学会の皆さんと英語セッションあるいは海外の学会で一緒できることを楽しみにしています。

(大阪教育大学 安達智子)